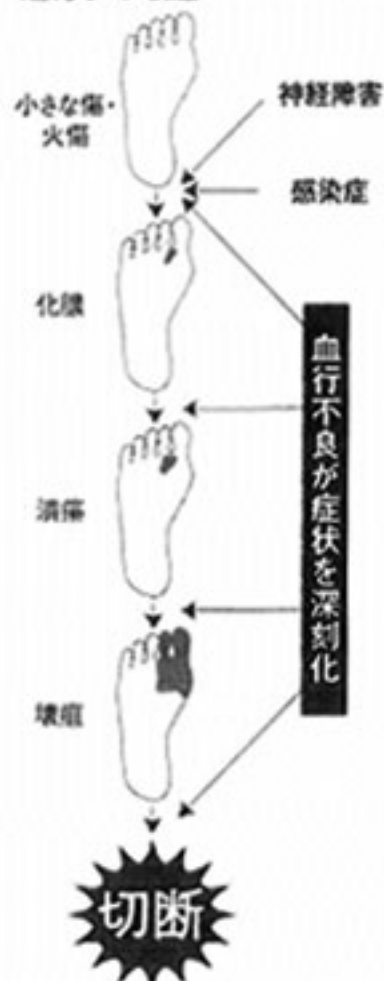


●糖尿病の放置・悪化によって進行する壊疽



血糖値が安定せず、さらに足の傷を放置することで壊疽の事態に悪化し、足の切断を余儀なくされることに

「小さな傷や火傷が潰瘍になる恐れ」
 足の小さな傷や火傷が潰瘍になる恐れ。これは、血行不良があるため、自然治癒が遅く、細菌への抵抗力が低下していることと相まって、傷口が化膿してしまいます。これが引き金となって、潰瘍（組織の部分的な欠損）から壊疽（骨まで壊死する）を発生してしま

る。そう、砂利を踏んでいるようといった感覚の鈍りもよく誘えられること。すなわち、こうした異常が現れる理由としては、また仮説ではあります。が、フドク糖から変化したソルビトールという物質が、神経細胞に蓄積する「ソルビトール」がたまることで、神経細胞がふくろんで変性する。本来の機能を失う。ことから、しびれ・痛み・感覚の鈍りなどの知覚障害が起ると考えられています。

閉塞性動脈硬化症が進行すると、足が冷たい、しびれるなどの自覚症状に加えて、長い距離を歩くと歩くことが困難になります（間欠性跛行）。

数十、数百歩いたただけで、足のしびれや痛みが後後でなくなる。少し休むと症状が楽になる。また歩けるようになる。足の筋肉を動かすための血流が、十分に保たれていないので、こうした症状が起るのです。そのため、糖尿病の神経障害を発生した患者さんは、閉塞性動脈硬化症の検査を受けて、毛細血管の血流をチエックしておくことも肝要。

「小さな傷や火傷が潰瘍の発端になる恐れ」
 足のしびれや痛み、足先の違和感には確かに不快ですが、糖尿病の神経障害で本当に怖ろしいべきなのは、こうした知覚障害そのものではない。目眩、痛みや熱さを感じにくくなっていることから、靴ずれや深爪で小さな傷ができた時、熱湯やストーブで火傷を負ってもそれに気がつかない。しかも、血行不良があるため自然治癒が遅く、細菌への抵抗力が低下していることと相まって、傷口が化膿してしまいます。これが引き金となって、潰瘍（組織の部分的な欠損）から壊疽（骨まで壊死する）を発生してしま



● 辛 浩基(しん こうき)
 1984年東邦大学医学部卒業。東邦大学医学部付属大森病院第2内科入局。1997年しんクリニック開院。東邦大学医学部内科非常勤講師。日本工学院専門学校理学療法科講師。日本内科学会認定医。日本糖尿病学会認定医。医学博士

その可能性を否定できない。糖尿病は二〇〇万人で、計二〇五〇万人が糖尿病の危機にさらされていると報告されました。糖尿病を放置すると待たずかまえていては恐ろしい事態。それは全身のあちこちに引き起こされる

●糖尿病の3大合併症

- 糖尿病性神経障害** 手足の末梢神経が正常に機能なくなり、知覚障害から壊疽の温床になる
- 糖尿病性網膜症** 網膜の毛細血管が出血をして、視界がゆがんだり、視力が失われる
- 糖尿病性腎症** 腎臓の毛細血管が障害を受けて血液のろ過機能が低下し、人工透析にも至る

足指がチクチクしたり砂利を踏んでいる感覚

二〇一二年の国民健康・栄養調査結果によれば、糖尿病が強く疑われる人（有病者）は九五〇万人で過去最多。

その可能性を否定できない。糖尿病は二〇〇万人で、計二〇五〇万人が糖尿病の危機にさらされていると報告されました。糖尿病を放置すると待たずかまえていては恐ろしい事態。それは全身のあちこちに引き起こされる

手足など体の末端に血流障害が起り、神経細胞がダメージを受けると、チクチク、ビリビリ、ジンジンとするしびれや痛みが発生。ケースバイケースですが、まず足の指にこうした異常が起る患者さんが多く見受けられます。足の裏に薄紙を貼ってつけてい

壊疽の危機を招く糖尿病の神経障害はヘモグロビンA_{1c}の管理と足の血流促進で回避する

しんクリニック院長 日本糖尿病学会認定専門医・医学博士 辛浩基